

2023年度通常枠 休眠預金活用事業応募団体

団体名	所在地	事業名	事業概要
<p>一般社団法人 Eureka coco</p>	<p>千葉県 我孫子市</p>	<p>10代の若者が自己肯定感と多様な生き方を学校と地域で育むプログラム</p>	<p>1 自己表出プログラム:本来の自分を表出し、他者に受容される体験プログラムの開発・実装 ・当事者である10代とともに開発する。 ・10代が安心して「自己表出」ができるよう、デザインやエンターテインメント性を確保する。教育や福祉などの専門家だけでなく、デザインやエンタメの専門家を巻き込んだ開発をする。 ・「自己表出プログラム」を学校で実装していく為に、教育行政との連携をとる。(我孫子市教育長は連携を承諾済み)</p> <p>2 多様な生き方に触れる人生体験プログラムの開発・実装 ・学校の価値観である「画一主義」「同調主義」だけではない、多様な価値観を大切にした生き方の大人とのダイアログプログラムの開発。 ・学校、地域の両方で定期的に開催する。 ・参加する大人の選出は本団体が行う。これまでの活動で子どもたちとの関わりの経験があること、多様な価値観を受け入れて生きていること、多様な世代、価値観の人との関わりが大事であると認識していること、継続的に本プロジェクトに関わる意思があることなどを基準に選出する。</p> <p>3 情報共有ツールの開発 「多様な生き方に触れる人生体験プログラム」の記録を残し、プログラムに参加している人と共有するプログラムをIT企業の協力を得ながら、10代が開発していく。</p> <p>4 地域の中に10代の若者と地域が出会う場の開設・運営 >上記プログラムのワークショップ会場の機能だけでなく、学生が宿題をしたり、対話をしたりして過ごすの機能を持つ場を地域の中に創設し運営する。 ・屋外で遊びたい時は「ごちゃにわ」を活用。異年齢集団の中で育ち合う経験を通して、自己肯定感、自己有用感を獲得していく。 ・相談機能としても保育士や相談援助の専門職であるメンバーが相談に乗り、我孫子市教育相談センターなどとも連携して支援体制を構築する。</p>

<p>南流山 子ども食堂の会</p>	<p>千葉県 流山市</p>	<p>地域で子どもの幸福 度を救え！支援する されるの垣根を超え た総合体験提供事 業～食・学び・社会 貢献体験～</p>	<p><事情あり、なし、全ての属性の子供達の自主性・存在価値を育む事業>(自主性・自己存在価値、幸福度の向上) ①「子供は支援されるもの」という立場に加え、自らが積極的に社会と関わるチャンスを提供する／子ども食堂、地域交流食堂、学習支援などの運営②その他、クリーン活動や高齢者との触れ合いなど、子供が主体となって社会の人々へ貢献出来る活動。</p> <p><ハイリスク児童・家庭をサポートする事業>(居場所・学習意欲向上・貧困対策・送迎サービス) ①学習支援／平日週2回、不登校児向けの学習プログラムを実施②学校にも当団体にも出て行く事が難しい子供の家庭訪問、会場への送迎③ハイリスク児童への食事・食料支援、学習サポート、寄り添い、学校や行政との連携等④その親との対面、公式ライン等での無料相談</p> <p><事情あり、なし、全ての属性の子供達の、文化への興味関心・意欲を育む事業>(文化への関心向上・体験格差解消) ①子供理科教室／学校の勉強とは違った身近な理科の楽しさを学ぶ②社会科見学や博物館見学、コンサート等のイベント開催③他団体と連携し、団体のイベントにも子供達と一緒に参加する</p> <p><教育機関への提言>①コミュニケーションスクールの評議員として学校方針への提案、更に行政への政策提言をする②各小中学校・教育委員会管轄下での講座等への出前授業の実施、子供ボランティアの参加者を募る</p> <p><PR・普及事業>①メディア出演や講演会、セミナー等の発信を軸に、活動を日本全土に広めていき、共感者や寄付者を増加させる②他共感団体への活動サポート</p> <p><ステイクホルダー構築>事情あり層への普及として3市の児童養護施設、自立援助ホーム、教育機関、行政機関などに積極的に当団体を紹介し、連携を図る。また、事情あり、なし両者に対して同じ志のNPOなどと連携し、自主開催以外のイベント、社会活動、体験活動などに積極的に子ども達が参加出来る様に連携を図る</p>
<p>一般社団法人 ぴおねろの森</p>	<p>千葉県 印西市</p>	<p>シン・ぴおねろの森 プロジェクト</p>	<p>当団体は、個人の自宅を利用し、学校が苦しい子ども達が、まず休み、安心できる居場所と温かいごはんを提供することで、人との繋がりを実感し、孤立感の軽減を最優先に取り組んできた。また、遊びや生活、様々な体験活動を通して、心を満たし、生きる喜びや希望を見い出せるように、さらに地域のまちの先生による「好きの伴走支援」も行い、不登校の子ども達の教育の機会確保にも力を入れてきた。親に対しては、不安に寄り添い、親の会や勉強会を開催、電話相談の他、登録に至らない親に対しても伴走支援を行い、孤立を防ぐ取り組みも実施している。現在、先駆的な取り組みとして、在籍児童生徒の安否をリアルタイムに確認できる「安否確認共有システム」の導入を対象地域で進めており、学校とフリースクールが連携し、チームで子どもの安全・回復・成長を見守る仕組みづくりを推進している。今後、持続可能な活動にするために、印西市と地元支援者から新たな居場所の土地を確保した。この場を活用し、多様な居場所の拡充を図るとともに、チームで見守る最新デジタルインフラを使った運営モデルの共有は、居場所の質の担保、向上にも、一役を担うことが期待される。当団体は運営上、様々な課題を抱える中で、すべての子ども達が安心して通い、十分な教育の機会を確保する為には、移転は不可欠である。より開かれた場への移転は、いまだ苦しむ子どもや親の希望となり、さらに、移転先の過疎・高齢化問題を踏まえ、ユニバーサルな居場所づくりは、地域コミュニティの再生に貢献するものと考えている。よって、本事業は、学校が苦しい子どもや親の孤立を防ぐとともに、地域社会においても、多大なる効果が期待され、大きな意義を有している。</p>

<p>一般社団法人 アイルゴー</p>	<p>千葉県 鎌ケ谷市</p>	<p>子どもたちの社会的な居場所づくり事業</p>	<p>地域に住む、家庭や学校に居場所がなく、自分に自信を持っていない子どもたちや保護者を主な対象としつつ、参加を希望する子どもたちや保護者は拒まずに受け入れながら、以下の事業を行う。</p> <p>①子どもの「生きる力」を育むプログラム 対面で、全10回の集合型プログラムを実施する事業。子どもたちの「学びの向かう力」「知識や技能」「思考力、判断力、表現力」などを育み、子どもが自分の持ち味を発見でき、自分を認められるようになることを目指す。プログラムは、ワークショップ形式での進行を中心とし、自己理解、対話スキル、マネーマネジメント等を学ぶ。地元事業者との協働によるビジネス体験なども取り入れる予定。さまざまな参加者が参加できるよう、単発でも参加できる回も実施する。</p> <p>②地域の子育て支援ネットワークづくり 鎌ケ谷市内の子育て支援に取り組む、市民団体、教育機関、行政、事業者等など多様な関係者をつなぐ事業。子どもを持つ親が、支援が必要になった時にすぐに支援につなげられる状態を目指す。ネットワークでは、相互の活動理解や学びにつながる交流&勉強の機会を定期的開催したり、将来的には地域の方々の参加できる公開イベントの企画も予定。</p> <p>③オンラインで繋がる居場所作り 保護者が仕事で忙しい家庭や家庭以外の繋がりを必要とする子どもが気軽につながれる環境を作るため、ZOOMなどオンラインで、日常的な声かけをできる場をつくる事業。朝、昼、晩の声かけや、日常の雑談の中から、悩みの共有や孤独・孤立を防ぐことを目指す。また、ピラティス体験やゲーム体験、不登校の当事者としての雑談など、多様なイベントも混ぜ込みながら実施する。話がしやすい環境作りとして、顔を出さずにキャラクターや3Dなどを使用し、仮想空間での会話をするなども行う。また、高校生や大学生など年齢に近いスタッフにも参加してもらい、話しやすい環境を作っていく。”</p>
-------------------------	---------------------	---------------------------	---

<p>NPO法人 イシュープラス デザイン</p>	<p>東京都 文京区</p>	<p>認知症世界の歩き 方倶楽部: 認知症高 齢者の孤立予防と幸 せな生活実現のコ ミュニティ構築</p>	<p>本事業で取り組む課題は「認知・身体機能低下からはじまる高齢者の社会的孤立」である。</p> <p>課題1: 85歳以上の約半数は認知症を発症する見込みで、大半の方が90歳以上を生きる人生100年時代、「誰もが認知症とともに生きる時代」に突入する。</p> <p>課題2: 東京への一極集中・ベッドタウン化、核家族化・単独世帯化により家族・親族との関係も希薄化。退職を機に会社との人間関係も薄れ、社会的に孤立状態に陥る高齢者が増加。</p> <p>課題3: 社会的孤立は、過度な飲酒、運動不足、肥満よりも、各種疾患の発症・悪化リスクを高める。社会的孤立に伴う脳卒中や心臓病の発症リスクは約1.3倍、認知症の発症リスクは約1.5倍に。</p> <p>本助成を受け、認知・身体機能が低下する認知症当事者の社会的孤立解決のための、認知症をテーマにした学びと出会いの拠点づくり「認知症世界の歩き方倶楽部」のプログラム開発・運営を行う。</p> <p>特徴1: 映像やワークショップを通じて、本人中心に多様な方がみんなで認知症を学ぶ 認知症当事者を中心に、予備軍、ご家族、専門職、地域住民が、みんなで一緒になって、認知症ご本人目線で認知症について、アニメ映像やゲーム型ワークショップを通じ対話をしながら学ぶ</p> <p>特徴2: 認知症ご本人の幸せな暮らしをテクノロジーやコミュニティの力で実現する 認知症のある方が継続的に社会参加できるよう、ご本人には趣味や仕事など幸せな暮らしを考え、仲間やAI・ITの力を活用して実現する方法を考える機会を、ご家族や専門職には幸せな暮らしを支援する生活環境デザインや対話方法を習得する機会を提供する</p> <p>特徴3: 認知症への理解が変わる、認知症フレンドリーな地域へと変わる 歩き方倶楽部を通じて、地域みんなの認知症への理解が変わり、認知症ご本人と周囲の人が繋がり直すことで、社会的に孤立する認知症ご本人を地域みんなで支える地域へと変えていく</p>
<p>一般社団法人 生きる</p>	<p>千葉県 我孫子市</p>	<p>東葛地域スマート ホーム化支援事業 オンラインで暮らしを 楽しみ、家族をつな げ、地域を紡ぐ</p>	<p>国はデータやテクノロジーの統合が進む超スマート社会への移行を積極的に推進している。2021年9月にデジタル庁が発足し、2023年には「デジタル社会の実現に向けた重点計画」が閣議決定された。しかし、この動きとは対照的に、我孫子市における高齢者の割合が全人口の30%に達し、デジタル機器の操作に苦勞する人々が多く存在し、世代間でのデジタル格差が顕著に生じている。</p> <p>私たちはデジタル機器を活用することで、生活の質の向上が図られるだけでなく、介護予防にも貢献できると考えている。デジタル機器を駆使することで、高齢者が自立した生活を送ることができ、将来的な介護需要にも対応できる環境を整備することが可能である。例えば、見守りカメラや人感センサーなどの装置を導入することで、高齢者が安心して在宅生活を送れる環境整備につながる。今回の事業でディスプレイ付きスマートスピーカーを導入し声で操作する支援を行うこととした。そこで、私たちは、スマートスピーカー3社の比較検討を行った。民間企業のスマートホームショールームを見学し、意見交換をさせていただき、連携する家電が豊富・アプリの操作性も良い・ビデオ通話も可能等の理由からAlexaエコショー8を設置することとした。</p> <p>地方自治体としての我孫子市役所とも緊密な連携を図り、デジタル活用の促進に取り組んでいる。市役所の関係各課と協力し、地域全体のデジタル化を推進するとともに、デジタル技術を行政サービスに活かすことで、行政施策の効果的な実現を目指したい。このような取り組みは、持続可能な行政運営の構築にも貢献すると確信している。デジタル活用の促進には、単なる技術の導入にとどまらず、地域社会全体の発展や高齢者の生活改善に向けた包括的な取り組みが必要である。私たちは、デジタル格差の解消や持続可能な社会の実現に向け、さらなる努力を続けていく所存である。</p>

<p>ママとこcafé</p>	<p>茨城県 北相馬郡 利根町</p>	<p>KIDSスペース付きの caféを頼りあいと多 世代交流の拠点へ</p>	<p>①子育て中のママは、普段の食事は子供が優先となり、自分の食事をゆっくり楽しむことができない。また、周りに頼れる人がいない、子育ての相談をできる相手がいないなど、不安や孤独感を感じている方が多い。そのようなママたちに、小さな子ども連れでも安心してゆっくりと食事が楽しんでいただくことをコンセプトに「ママとこcafé」を運営しています。店内では、食事をするだけでなく、同じような悩みを持つお客様同士のコミュニティが自然と生まれており、交流の中で孤独感や不安の軽減に繋がっています。</p> <p>②利根町は少子高齢化の進展とともに若い世代の流出や自然減による人口減少が大きな課題となっており、平成29年4月には過疎地域の指定を受けています。ママとこcaféがある周辺地域においても高齢化率は50%を超えており、独居で暮らす高齢者も多くいます。近辺には、大型スーパーはあるものの徒歩で行くには距離があり、飲食店も少ないため、免許を持たない高齢者にとっては日常の買い物や食事をする場所がないことが大きな負担となっています。ママとこcaféでは、こうしたシニアの方たちにも食事や料理を提供できたらと思い、子育て世代だけでなくシニアの方たちにも店内で食事を楽しんでいただくほか、お弁当やお惣菜のテイクアウトを始めたところ、普段接する機会のない子どもや若いママたちと交流ができると大変喜ばれています。最近では、毎週末ママとこcaféでランチするのを楽しみに通ってくださる高齢者夫婦もいるなど、徐々にではありますが、地域の高齢者の方たちの来店も増えており、ママとこcafé＝多世代交流の拠点としての可能性を感じています。</p>
<p>NPO法人 テラス21</p>	<p>千葉県 柏市</p>	<p>TOKATSUコミュニ ティリンク だれでも・どこでも・ どんなときも・つなが る場づくり</p>	<p>柏市で築いてきた社会制度から漏れた人(グレーゾーン)の支援方法とその支援者の養成、支援する対象者を通しての他市とのネットワークから東葛地域でのリンク活動と支援方法を会得した人材(コミュニティリンクワーカー)の活動とその育成、また東葛地域のモデルとしての拠点活動とその活動を持続可能にする収益活動を行う。</p> <p>①リンク活動:東葛地域での受益者の支援に関係する多様な主体(行政機関・中間支援団体・支援活動団体・企業等)で構成するゆるやかなプラットフォームづくり・啓発講座(人生100年社会デザイン財団に協力):4回程度開催・意見交換会:6回程度開催・交流会:2回程度開催</p> <p>②支援活動:受益者に寄り添いその人の興味・関心・特技からその人にあったコミュニティにつなげていく活動とその人材の育成・拠点に関わった受益者を東葛地域の合ったコミュニティにつなげる・人材の育成『コミュニティリンクワーカー養成講座』の開催:3回実施</p> <p>③拠点活動:地域とつながりを持ち、受益者と寄り添いながら、地域のコミュニティにつなげ、その受益者が主体的にコミュニティに参画していく支援 《拠点》あ・えーるテラス(障害者等の社会参加と就労支援)・光ヶ丘コミュニティミックス(子どもと高齢者との多世代交流と生活支援)</p> <p>④収益活動:事業全体と受益者の支援を持続可能にするための収益づくり ・ハンドブックの制作と普及活動(東葛地域での福祉事業所の製品の紹介や受益者に関わる支援活動の情報発信と掲載料の獲得による収益活動) ・HAPPYサイクル活動(福祉事業所の製品の開発と売り上げの増加・販路の拡大による受益者の工賃向上と手数料による収益活動)</p>